精神的変革

サンドラ・フォトス

<概要>

個人の精神的変革は人類の再生とこの惑星の諸現象を組織化するための基礎であると認められている。変革の過程に不可欠な鍵は「聖なる書」を日々読み、「必須の祈り」を唱えることである。明らかなことは、「創造の言葉」には個人の内部に再構築を引き起こす力が与えられていて、これが精神的変革につながるのである。

本稿はそのような再構築がどのようにして起こるのかを示す認知モデルを提示する。このモデルは最近の心理言語学の理論に由来しており、著者が行ってきた第2言語の習得過程に関する一連の研究によって実証的に検証されてきた。言語学習の場面においては言語項目に関する教室での授業が最も効果的になるのは、それに伴ってコミュニケーションによるインプットの中に授業の対象となっている言語形式があることに気付く場合である。この気付くということが学習者の中間言語の認知的再構築に決定的な役割をはたしていると提唱されている。そして、この気付くという行為は教室での授業と言語項目の無意識による習得との間を結ぶ鍵であるとみなされている。

人間の学習一般に見られる顕著な特徴は、それが意味を創造するプロセスだということである。したがって、言語は人間の持つ知識の領域であるばかりでなく、知識の創造に必要な根本的条件である。この観点から見ると、大部分の人々にとって精神的変革は多分言語を基礎とするプロセスとして生じると考えるのが妥当である。そうであるとすれば、上述のモデルは人間の性質の再構築を説明するのに使うことができる。

個人が「聖なる書」を読み、祈りをささげ、あるいは意識を深めるためのクラスに出席するときに、それは望ましい精神的特徴や性質に関する正規の授業を構成すると考えられる。そのような個人がさらに進んで、他人の行為の中や「創造の言葉」を読む中にそのような特質があることに気付けば、認知的再構築のプロセスが始まり、個人が最終的にはそのような特質を自分自身のアウトプットとして外に表わすことが可能になる。